

第374空輸航空団新司令官にラダン大佐就任

Col. Roddan receives command of the 374th Airlift Wing

June 23, 2022

By Senior Airman Hannah Bean
374th Airlift Wing Public Affairs

6月23日、第374空輸航空団指揮権交代式が執り行われ、アンドリュー・L・ラダン大佐がアンドリュー・J・キャンベル大佐から指揮権を引き継いだ。

式典執行官は、在日米軍兼第5空軍司令官リッキー・ラップ中将が務めた。

ラップ中将は、「この特別な機会にご来席いただいた皆さまに感謝します。妻シャーロットとともにこの場に立ち会えることを光栄に思います」と述べ、「キャンベル大佐は素晴らしい功績を残した。史上最大規模の日米空挺作戦、日米友好祭やそれらで培われた地域社会との関係、飛行場運用の向上、医療、整備、運用、任務支援の隊員のたゆまぬ努力によって培われた即応性と確かな抑止力の強化など、この航空団の成功は数えきれない。この数年の(キャンベル大佐の)尽力なしに成しえなかった」と語った。

指揮権を委譲する際、キャンベル大佐は横田のメンバーに感謝の意を表し、今後の期待を語った。

「この横田の素晴らしいコミュニティで第374空輸航空団の司令官を務めたことは、生涯で最も名誉なことだった」とキャンベル大佐は述べ、「第374空輸航空団そしてチーム横田全部隊で使命に奮闘努力する諸君を心から誇りに思い、ここを後にする。寒さや雨の中での警備、友好祭でエアフォースワンが着陸した際の激励等、諸君のプロ意識と熱意は一線を画すものだ。我々が守る平和と安定は、臆しては得られないことを、これからも胸に刻んで欲しい。自由、自身の自由、そして我々が共有する自由は、果敢に挑むことで得られるものである。空輸任務に果敢に挑み続けて欲しい」と語った。

ラダン大佐は、前職でアーカンソー州リトルロック空軍基地の第19作戦群司令官を務めた。同職責において、29機のC-130Jを運用する2つの空輸中隊を含む機敏な戦闘空輸を展開し維持する4つの中隊を指揮し、機動空軍全体合同訓練や演習を実施した。また、リトルロック空軍基地飛行場の運用および同基地における航空機動軍団、航空教育訓練軍、空軍州兵、空軍予備軍、米兵器学校のための作戦支援機能の責務を担った。

ラダン大佐は、指揮権を継承するにあたり、横田のメンバーに次のように語った。

「今日、私がここに立っているのは、時間をかけて私を導き、教え、支え、この職務のために準備を行ってくれた方々のおかげだ」とラダン大佐は述べ、「私が仕えてきた上司、共に働いてきた仲間、私が指導してきた部下たち、そして同様にお世話になった軍の外部の方々、オンラインで見てくださっている方々、参加できなかった方々も含め、皆が今日の私に育ててくれたのです。皆さん一人ひとりに感謝します。皆さんの力のお陰で、この日を迎えた」と語った。

